

鈴木俊法(助教授)*)

A-1) 専門領域：化学反応動力学

A-2) 研究課題：

- a) 超高速光電子分光による化学反応の実時間追跡
- b) 化学反応の立体動力学
- c) 分子線散乱法による二分子反応の研究

A-3) 研究活動の概略と主な成果

- a) フェムト秒光電子画像観測法の開発。光励起ダイナミクスの新しい研究展開。
- b) 偏光光イオン化法による電子軌道配向の検出・非断熱遷移の観測。ベクトル関連の理論解析手法の構築。
- c) 交差分子線画像観測法の開発。状態選別微分散乱断面積の測定。

B-6) 受賞、表彰

鈴木俊法, 分子科学奨励森野基金 (1993年度).

鈴木俊法, 日本化学会進歩賞 (1994年度).

鈴木俊法, 日本分光学会論文賞 (1998年度).

B-7) 学会および社会的活動

学協会役員、委員

第15期分子科学研究会副委員長 (1999-2002).

第16期分子科学研究会副委員長 (2002-2004).

学会の組織委員等

第1回日本台湾分子動力学学会議主催者 (1997).

分子構造総合討論会プログラム委員 (1997).

第1回東アジア分子動力学学会議主催者 (1998).

第15回化学反応討論会組織委員 (1999).

分子研研究会「分子及び分子小集団の超高速反応ダイナミクスに関する研究会」主催者 (1999).

国際シンポジウム, The International Symposium on Photo-Dynamics and Reaction Dynamics of Molecules, プログラム委員 (1999).

分子研研究会「立体反応ダイナミクスの新展開」主催者 (2000).

Gordon Conference on Atomic and Molecular Interactions, Discussion Leader (2000).

環太平洋化学会議 シンポジウム, New Frontiers in Chemical Reaction Dynamics, 主催者 (2000).

C) 研究活動の課題と展望

化学反応の本質に関わる基礎研究を、孤立分子の光化学や原子分子衝突から、機能性分子や液体・複雑系に発展させる。イメージング法をはじめとするオリジナルな実験手段による新しい切り口の模索と量子化学計算をはじめとする理論との共同によって新しい化学反応研究を開拓する。

* 2003年4月1日理化学研究所主任研究員